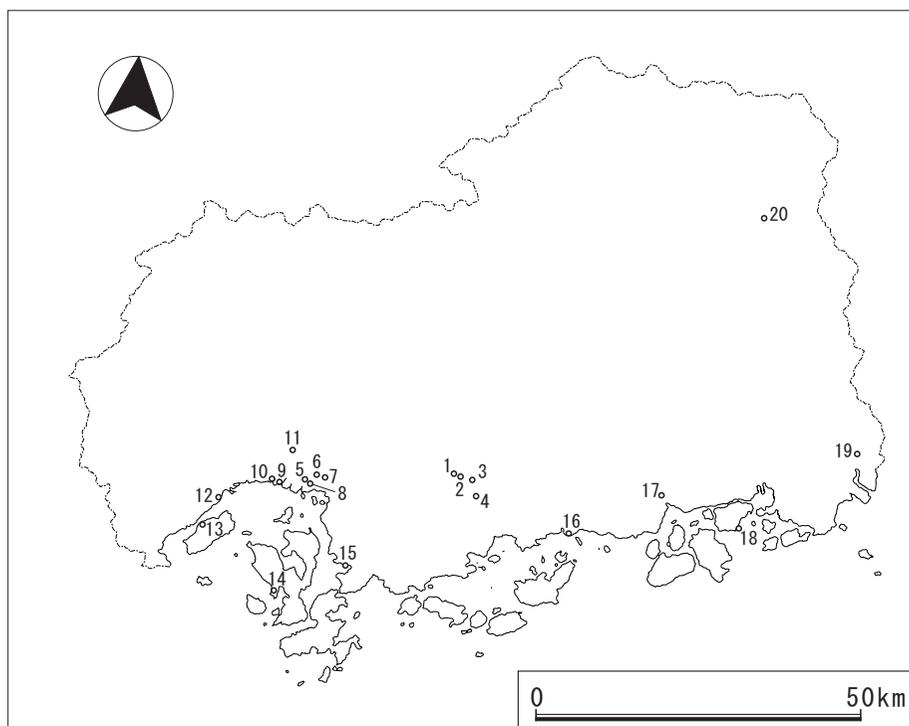


## 開発に伴う協議と立会・試掘調査の概要（2008年度）

### 1. はじめに

広島大学が所管する施設所在地は、本部キャンパスが位置する東広島市および統合移転する以前に本部キャンパスなどが所在した広島市を中心に広島県各地に分散しており、合計28ヶ所を数える（大学・附属学校校舎等を中心とする敷地7ヶ所、研究所等施設敷地8ヶ所、課外活動施設敷地5ヶ所、職員宿舎敷地8ヶ所）。これら大学関連施設において2008年度に掘削工事を伴う埋蔵文化財協議を実施したのは34件であり、そのうち10件について立会調査、1件について試掘調査を実施した。本年度は、発掘調査に至る事例はなかった。協議件数34件を地区別に見ると、東広島地区（東

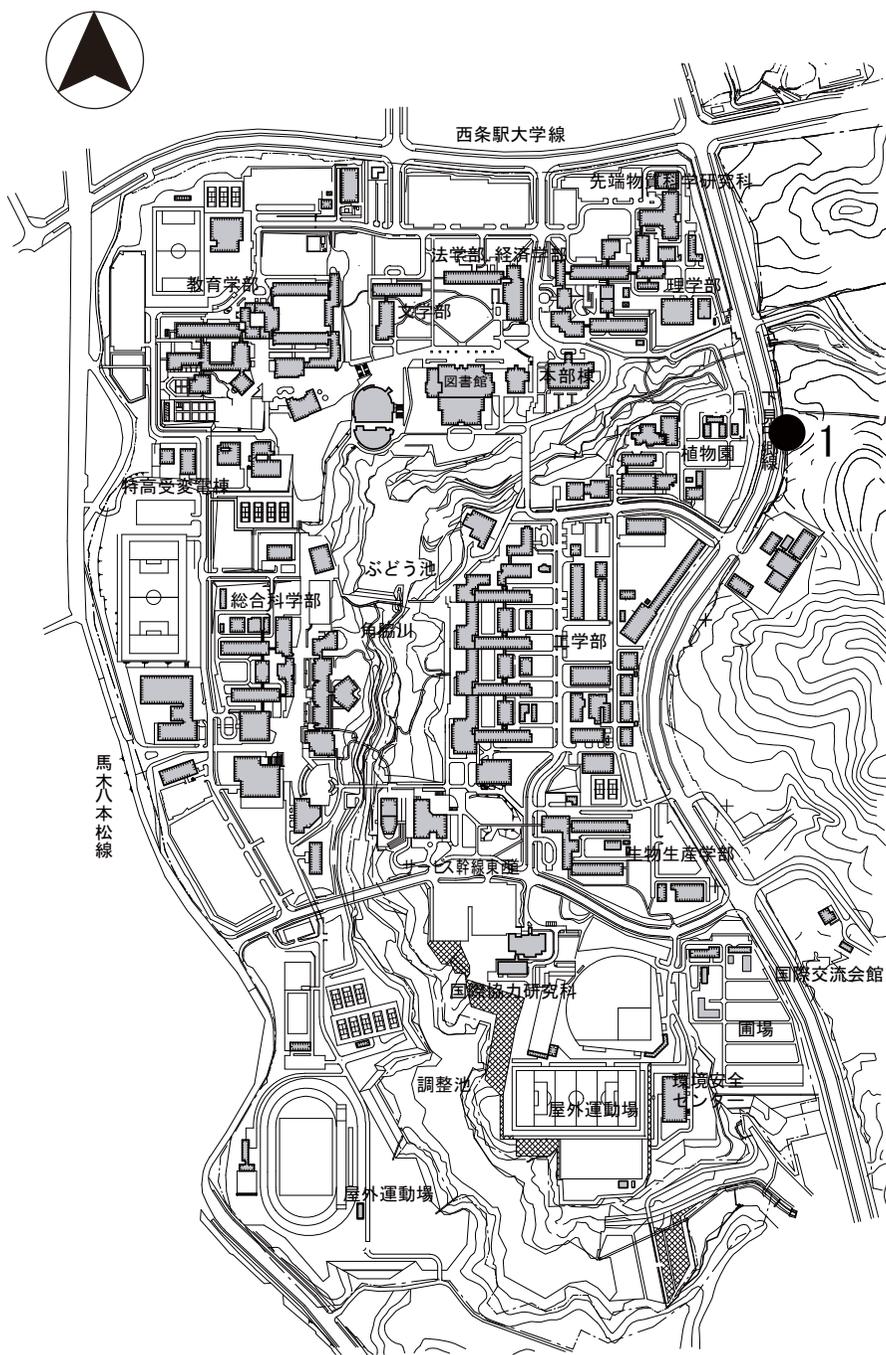


第31図 広島大学の校地所在地図（職員宿舎を除く）

1. 東広島地区
2. サイエンスパーク地区
3. 総合グランド地区
4. 下三永地区
5. 東千田地区
6. 霞地区
7. 東雲地区
8. 翠地区
9. 観音地区
10. 庚午南地区
11. 三滝地区
12. 廿日市地区
13. 宮島地区
14. 沖美地区
15. 呉地区
16. 竹原地区
17. 三原地区
18. 向島地区
19. 春日地区
20. 帝釈地区

第 18 表 2008 年度（平成 20）広島大学における開発に伴う埋蔵文化財協議一覧

	件名	対象面積 (㎡)	協議書提出日	対応
東広島地区（東広島市）				
1	ぶどう池東縁部ベンチ等取設工事	4.4	2008 年 4 月	工事
2	工学部給水管取替工事	3.6	2008 年 4 月	工事
3	生物生産学部排水管取替工事	4.8	2008 年 4 月	工事
4	東体育館北側ガス管・水道管敷設工事	40.7	2008 年 6 月	工事
5	生物生産学部カーブミラー設置工事	0.5	2008 年 6 月	工事
6	学生宿舎高圧ケーブル再敷設工事		2008 年 6 月	工事
7	山中池南遺跡保存整備工事	1785	2008 年 9 月	立会
8	学生会館南歩道拡張工事	28	2008 年 10 月	工事
9	理学部・先端科学総合研究棟周辺駐車場整備工事	833	2008 年 10 月	工事
10	西条総合グラウンドエスキューテニスコート取設工事	330	2008 年 12 月	工事
11	野球場駐輪場取設工事	64	2008 年 12 月	工事
12	法学部・経済学部自転車置場増設工事	74	2008 年 12 月	工事
13	学生宿舎駐輪場改修工事	58	2009 年 1 月	工事
14	南グラウンドテニスコート改修工事	2800	2009 年 1 月	工事
15	教育学部管理棟壁面緑化植込み取設工事	28.5	2009 年 1 月	工事
16	池の上学生宿舎給排水管ほか改修工事	86	2009 年 2 月	一部立会
17	山中池南遺跡保存整備補足工事	32	2009 年 2 月	立会
18	中央図書館周辺案内板取設工事	7.4	2009 年 2 月	工事
総合グラウンド地区（東広島市）				
1	西条総合グラウンド便所新設ほか工事	189.4	2008 年 4 月	立会
霞地区（広島市）				
1	歯学部記念植樹工事	0.8	2008 年 5 月	工事
2	大学病院駐車場植栽工事	0.8	2008 年 6 月	工事
3	大学病院基幹整備（駐輪場移設等）工事	291.3	2006 年 6 月	立会
4	旧原爆放射能医学研究所研究棟取り壊し工事	6605	2008 年 8 月	一部立会
5	外来診療棟東側共同溝新設工事	6607	2008 年 8 月	立会・試掘調査
6	大学病院入院棟周辺植栽移設工事	151	2008 年 10 月	立会
7	医学部基礎講義棟改修に伴う外構工事	390	2008 年 11 月	一部立会
8	大学病院外来診療棟南側ガス管改修工事	211	2008 年 11 月	立会
9	入院棟南側憩いの森低木植栽工事	12.7	2009 年 3 月	工事
翠地区（広島市）				
1	小学校部校舎増築工事	805	2008 年 7 月	立会
福山地区（福山市）				
1	中高校校舎 A 改修工事	23.7	2008 年 7 月	工事
2	消火水槽新設工事	86	2008 年 11 月	工事
3	外灯新設・改修工事	7.8	2008 年 11 月	工事
帝釈地区（大学院文学研究科帝釈峡遺跡群発掘調査室）（庄原市）				
1	フェンス新設工事	15.4	2008 年 7 月	工事
2	柵新設工事	3.2	2008 年 7 月	工事



第 32 図 2008 年度東広島地区の立会調査位置図

1. 山中池南遺跡第 2 地点保存区整備工事

広島市) 18 件、総合グランド地区 (東広島市) 1 件、霞地区 (広島市) 9 件、翠地区 (広島市) 1 件、春日地区 (福山市) 3 件、帝釈地区 (庄原市) 1 件である。本部が所在する東広島地区を主体としているが、立会・試掘調査の実績で見ると、東広島地区 3 件、総合グランド地区 1 件、霞地区 6 件、翠地区 1 件で、霞地区を中心としている。

## 2. 試掘・立会調査の概要

次に、地区ごとに、試掘調査、立会調査の概要について述べてみたい。

東広島地区 (東広島市)

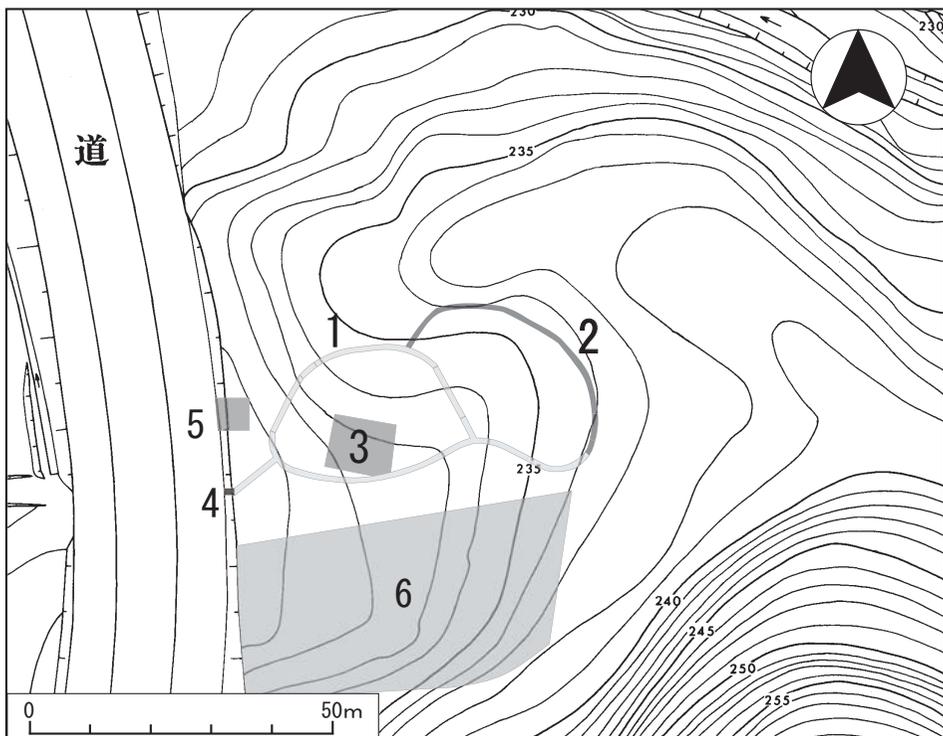
### 1) 広島大学山中池南遺跡第 2 地点保存区整備工事

所在地 東広島市鏡山 2 丁目

調査期間 2008 年 10 月 21 日～11 月 6 日

調査面積 1785㎡

調査者 藤野次史・永田千織



第 33 図 山中池南遺跡第 2 地点保存整備工事平面図

1. 既設散策道、2. 新設散策道、3. 1 号住居跡、4. 入口階段、5. 工事用搬入路、6. 盛土用採土採集場所

調査概要 広島大学東広島地区の山中池南遺跡第2地点保存区整備に伴って、散策道（階段部分）および遺跡南西部の掘削部分について調査を行った。散策道は昨年の保存整備工事において保存区西部～中央部が完成しており、本年度は古墳時代須恵器焼成窯跡周辺（保存区東部）の整備を行った。散策道は大半が盛土であるが、須恵器焼成窯跡東側の斜面部については安全のため階段を設置し、階段設置に伴い長さ5m、幅1mの範囲の調査終了面から深さ約20cm掘削した。掘削部分は調査で遺構の検出されなかった場所であり、掘削においても遺構、遺物とも発見されなかった。また、歩道と保存区を結ぶ通路についても整備し、歩道法面に階段を設置した。この部分は未調査箇所であり、階段設置の際に約20cmの掘削を行ったが、遺構、遺物ともに検出されなかった。



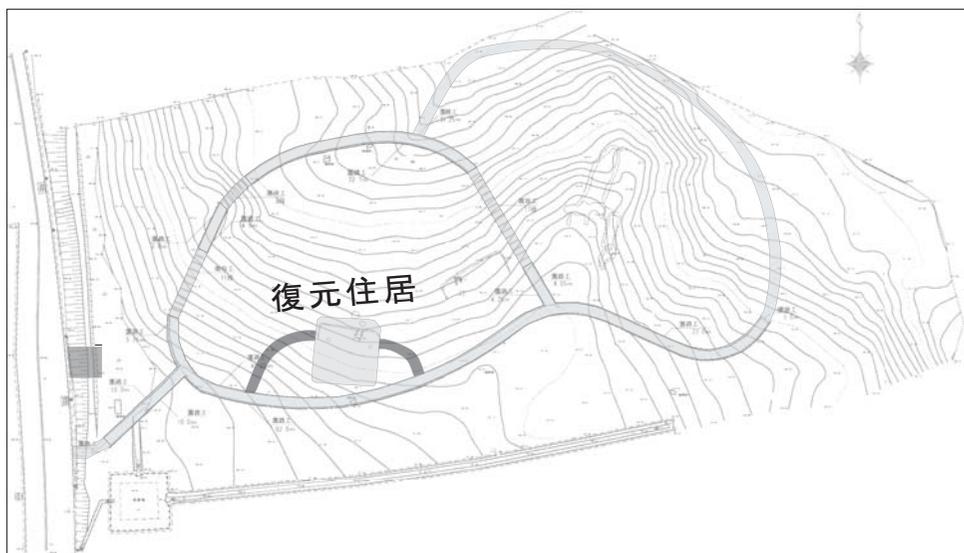
写真1 盛土掘削状況



写真2 入口階段設置状況

遺跡南西部の掘削場所は1996～1999年度発掘調査区南西部にあたり、発掘調査後に排土を盛り上げた部分である。最大で3m前後の盛土を行っていることから、今回の住居跡（1号住居跡）の復元に必要な土砂をこの部分から調達した。遺跡中央部および遺跡南端部の盛土の堆積が薄い部分に特に注意しながら掘削を行ったが、いずれの場所でも遺構面、旧地形面に達することはなかった。

この他、古墳時代住居跡（1号住居跡）を復元するため、遺構保護のための盛土を除去して竈部分を掘り出し、合成樹脂による型取りを行った。型取り後、埋め戻して現状に復し、さらに約50cmの盛土を行って住居跡を復元した。また、工事資材搬入のため、歩道と保存区間の法面を掘削した。昨年度とまったく同じ場所であり、すでに昨年度に調査を行っている。



第 34 図 山中池南遺跡第 2 地点保存区補足整備工事平面図  
(濃い灰色は補足整備工事範囲、薄い灰色は既設整備範囲を示す。)

## 2) 広島大学山中池南遺跡第 2 地点保存区補足整備工事

所在地 東広島市鏡山 2 丁目

調査期間 2009 年 3 月 16・17 日

調査面積 32㎡

調査者 藤野次史

調査概要 山中池南遺跡第 2 地点保存区の補足整備に伴って調査を実施した。同遺跡の本年度整備工事は 2008 年 10・11 月に実施し終了したが、散策道から復元住居跡へのアクセスが困難であることから、散策道から復元住居跡への階段を補足整備した。階段設置にあたっては全て盛土により成形した。盛土用土砂は遺跡南側の発掘調査排土を利用した。採土、盛土の際に遺物の出土はなかった。また、資材搬入のために歩道と保存区間の法面を幅 3 m にわたって掘削したが、掘削部分は昨年度調査済の場所である。



写真 3 階段部分土盛り状況

総合グラウンド地区（東広島市）

1) 西条総合グラウンド便所新設ほか工事

所在地 東広島市西条町御菌宇

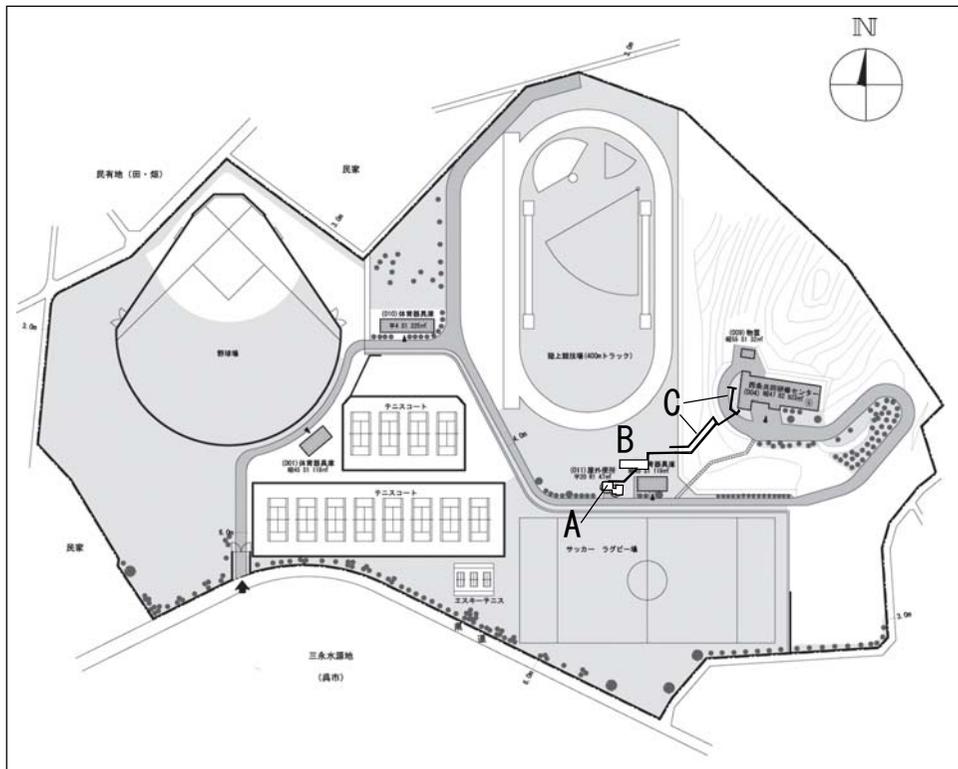
調査期間 2008年5月21日～6月11日

調査面積 189.4㎡

調査者 藤野次史

調査概要 広島大学西条総合グラウンドの便所新設に伴い、便所基礎掘り方部分および浄化槽掘り方部分ほかについて調査を行った。

便所基礎は、深さ1.5mまで掘削を行った。上半部はグラウンド造成の際の盛土と思われる黄褐色～橙褐色砂質土（マサ土主体）で、下半部水田耕作土と思われる暗灰色～暗青灰褐色粘質土、淡黄灰色系粘質土が堆積していた。最下層の淡黄灰色系粘質土は、北壁では水平堆積でなく、厚さも一定ではない。谷部の堆積層と思われる。



第35図 西条総合グラウンド便所ほか工事平面図（1：4000）

（A：新設便所、B：浄化槽、C：配管）

浄化槽は新設便所の北東側に近接して設置し、深さ約3.5 mまで掘削した。基本的な堆積の状況は以下の通りである。

第1層 暗褐色砂質土：芝土（表土層） 5cm

第2層 橙褐色粘質土 70～100cm

第3層 黄白色砂質土 50～250cm  
以上

第4層 黄褐色～褐色砂質土 50～80cm

第5層 黄褐色砂質土 50cm 以上

第2層はグラウンド造成時の盛土で、東側に向かって少し薄くなり、東端で70～80cmの厚さである。第3層以下は谷埋土である。第3層は軟質のマサ土であり、複数枚に細分が可能である。西に向かって厚さを増している。東部では次第に堆積が薄くなって不明瞭となり、褐色砂質土と不明瞭に境を接しているが、谷から丘陵へ変化する付近にあたることから、両者は同一層かもしれない。また、西端部では掘削下面以下も第3層が連続しており、非常に厚い堆積を示す。便所基礎の最下層に対応するものと思われる。第4層は北壁ではやや粗い砂粒であるが、南壁ではやや粘質であり、場所によって異なる性状を示す。第3層と第4層の間に灰色粘質土が堆積している部分が認め



写真4 新設便所基礎掘り方掘削状況



写真5 浄化槽基礎掘り方掘削状況



写真6 浄化槽基礎掘り方完掘状況



所在地 広島市南区霞1丁目2番3号

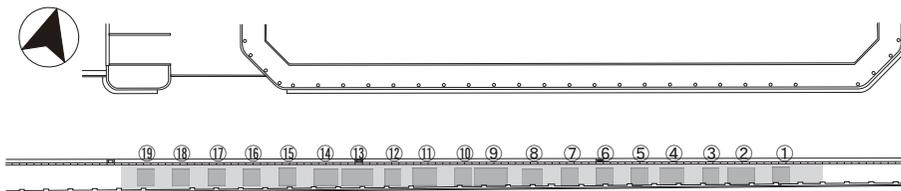
調査期間 2008年7月15日～8月18日

調査面積 約291.3㎡

調査者 藤野次史

調査概要 広島大学病院の基幹整備の一環としての駐輪場の移設に伴って試掘調査を実施した。駐輪場移設は5ヶ所で、そのうち掘削深度内に遺構等の存在の可能性がある3ヶ所（大学病院入院棟南側、看護師寮北側、エネルギー・センター東側）について調査した（第36図中1・4・5）。

大学病院入院棟南側 東西連絡道と敷地南端の塀に挟まれた細長い調査区で、東西約57mの規模である。まず、駐輪場予定地内の植栽の掘り取りを行った。掘り取りは高木11本であり、地表下50cm前後まで掘削を行ったが、植栽移設先を含めて遺構など検出されなかった。その後、駐輪場屋根支柱基礎掘り方の掘削を19ヶ所実施した（第37図①～⑱）。このうち、No.1～No.5・No.14～No.19支柱基礎掘り方において、地表下約70cmでコンクリート面を検出した。南側の塀（コンクリートブロック基礎と金属柵で構成）基礎まで掘削を行ったNo.14では、検出されたコンクリート面の上面に、現状の塀が構築されていることを確認した。すなわち、検出のコンクリート面の上面に、塀基礎であるコンクリート、コンクリートブロック（3段）、金属柵の順で構築されていた。検出したコンクリート面は南北約70cmの規模であり、北に向かってわずかに下方へ傾斜している。検出されたコンクリート面の北端はいずれの地区でも南側の塀からほぼ等距離にあり、検出レベルも一定であることから、現在の塀と平行するように構築されているものと判断される。なお、No.14では柱跡と思われる鉄筋および雨水樋の排水路跡と思われる遺構を検出した（写真8）。柱跡は一辺約15cmの角柱で、鉄筋は周囲に配置されていた。排水路跡は煉瓦で構築されており、排水



第59図 霞地区基幹整備工事駐輪場移設第1地区平面図（1：600）

（淡灰色は駐輪場土間コンクリート基礎掘削部分、濃灰色は駐輪場屋根基礎掘り方を示す。①～⑱は基礎掘り方番号である。）

路内外面をコンクリートで仕上げられている。現状は、内法で、長さ約45cm、幅11cmの規模である。樋接続部は調査区外に位置し痕跡を確認できなかったが、排水路につながる土製配水管が排水路北側に残されていた。また、No.6～No.9では地表下30～60cmでコンクリート基礎を検出した。表面に凹凸がなく滑らかな良質のコンクリートで、建物基礎の可能性が高い。No.10～No.13ではコンクリート面等は検出されなかった。この部分は南側の壁沿いに通信ケーブルが地下約70cm付近に敷設されており、ケーブル敷設に伴ってコンクリート面が除去された可能性が高い。

No.1～No.5・No.14～No.19 支柱基礎掘り方で検出したコンクリート面は、①現在の塀に平行するように約70cmの一定幅で東西に延びている、②コンクリート面は緩やかに北側下方へ傾斜する、③コンクリートの硬化は良好であるが、表面の凹凸が比較的顕著である、④コンクリート南端部上面は現市道側の石垣上面とほぼ一致する。石垣の東部は次第に現市道下に埋没して行き、東端部はほぼ現市道下に埋没する状態であることからかなり古い時期の構築物と想定される、⑤霞地区南東端で地表下50cm



写真7 駐輪場移設工事第1区全景



写真8 駐輪場移設工事第1区 No4 基礎掘り方検出コンクリート基礎全景



写真9 駐輪場移設工事第1区 No.14 基礎掘り方検出コンクリート基礎および排水路遺構

以下において旧広島陸軍兵器補給廠南端を限る溝の一部と推定される遺構が検出されていることなどから、旧広島陸軍兵器補給廠の南限を示す塀などの基礎である可能性が想定できる。

看護師寮北側 看護師寮北側の駐輪場北側緑地で、高木1本の移植と駐輪場屋根支柱基礎掘削に伴う調査である。支柱基礎掘削に先行して高木1本を移植したが、遺構・遺物とも検出されなかった。駐輪場は緑地西側の南北通路両側に2ヶ所設置され、屋根支柱基礎で西側に2ヶ所、東側で1ヶ所、深さ70cm程度まで掘削した。また、現駐輪場北側の歩道沿いに金属塀支柱基礎を9ヶ所、深さ50cm程度まで掘削した。いずれも褐色系砂質土で、戦後の整地層と思われる。遺構・遺物とも検出されなかった。

エネルギー・センター東側 エネルギー・センター玄関の北側緑地で、駐輪場屋根支柱基礎掘削に伴う調査である。エネルギー・センター東壁沿いに基礎掘り方4ヶ所を深さ約60cmまで掘削した。いずれもエネルギー・センター根切（建物基礎掘り方）埋土内に位置すると思われ、褐色系砂質土を主体とし、遺構・遺物とも確認されなかった。

なお、大学病院南側地区で検出した遺構は、掘削下底部で検出され、撤去することなく工事が可能であったことから現状のまま保存し、工事が進められた。

## 2) 霞地区基幹整備（原医研研究棟解体等）工事

所在地 広島市南区霞1丁目2番3号

調査期間 2008年9月12日～12月3日

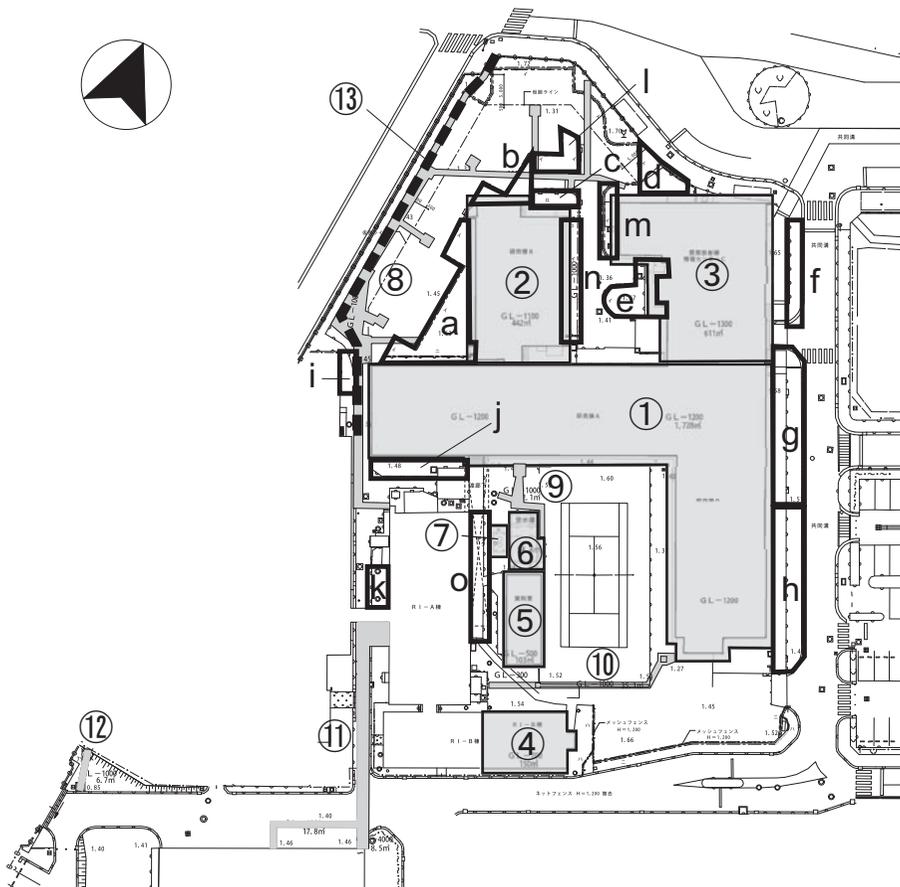
調査面積 6605㎡

調査者 藤野次史・永田千織

調査概要 大学病院外来診療棟建設に先立つもので、工事は旧原医研研究棟・付属施設の解体ならびに周辺の配管移設・撤去、植栽移設・撤去で構成される。

植栽移設および撤去 旧原医研敷地内に位置する植栽について、移植（1ヶ所）および撤去（13ヶ所）を行った（第38図）。植栽移設は研究棟A東西棟の南側（第36図11）で、中・高木4本掘取を行い（写真10）、霞地区北東部の保健学科研究棟南、RI研究棟北および南に移植した（第36図j～l、写真11）。移植元、移植先ともに掘削深度は50cm程度で、遺構、遺物ともに発見されなかった。植栽の撤去は敷地の全域に及んでおり、中・高木の撤去場所（第38図a～k）の調査を行った。掘削深度は30～50cmで、堆積土は褐色系砂質土を主体としていた（写真12）。いずれの地点も、遺構・遺物ともに発見されなかった。

配管移設および撤去 旧原医研敷地内の配管撤去（3ヶ所）とこれに伴ってこれまで隣接施設と共用していた配管を移設（3ヶ所）した。配管撤去（第38図⑧～⑩）はいずれも管設置時の掘り方を利用して行ったため調査は行わなかった。配管移設は、電気配管2ヶ所（第38図⑪・⑫）、ガス配管1ヶ所（第38図⑬）である。ガス配管移設の掘り方は、幅55cm、深さ約65cmの規模で、総延長約70mである。南側の原医研RI-C棟沿いでは近年の掘削に伴う埋積土と判断されたが、北側の市道との境界堀沿いの約60mについてはアスファルト基礎の下層は橙褐色粘質土（砂質が強く、よく締まる）を主体としていた。遺構・遺物は発見されなかったが、後述の旧原医研研究棟基礎撤去の際に確認された旧広島陸軍兵器補給廠（以下、兵器廠と略



第38図 震地区基幹整備（原医研研究棟解体等）工事位置図（1：1500）

①～⑤ 建物解体工事、⑥ 受水槽撤去工事、⑦ オイルタンク撤去工事、⑧～⑩ 配管撤去工事、⑪・⑫ 電気配管敷設工事、⑬ ガス管敷設工事（破線）、a～k 高木植栽移設・撤去工事、l～o 低木植栽撤去工事



写真 10 高木移植のための掘り方掘削状況



写真 11 高木植栽移設先掘り方掘削状況



写真 12 植撤去状況(高木)



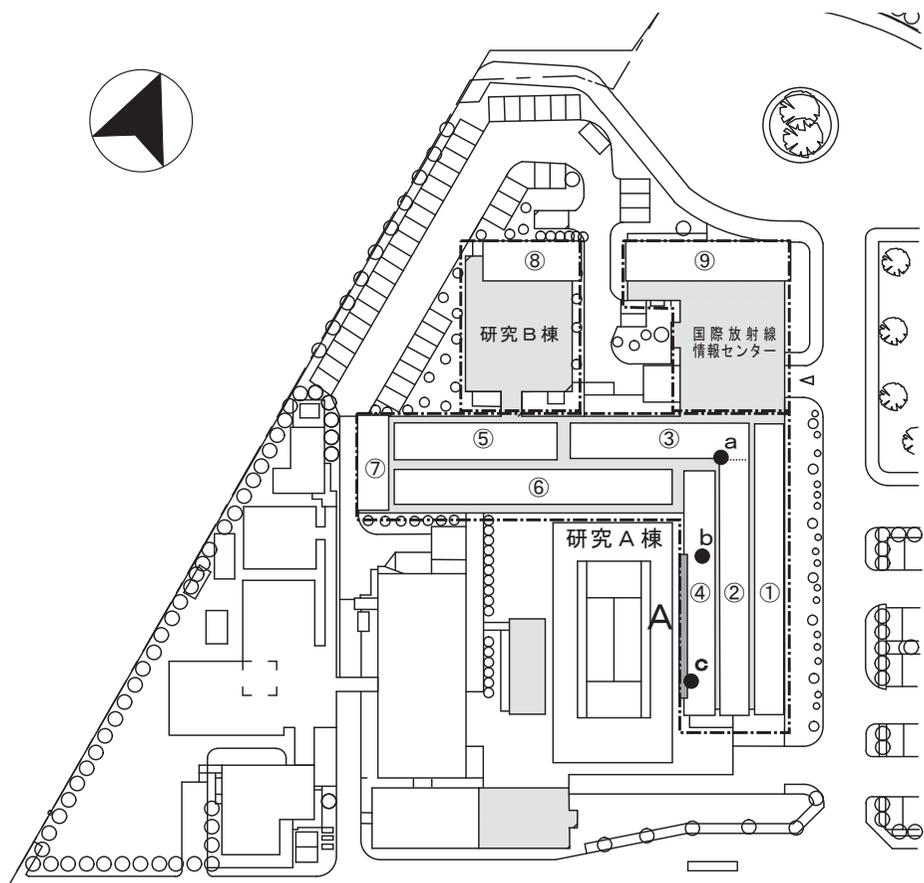
写真 13 ガス管敷設掘り方掘削状況



写真 14 電気配管付替掘り方掘削状況(1)



写真 15 電気配管付替掘り方掘削状況(2)



第 39 図 震地区基幹整備（原医研研究棟解体等）調査区位置図（1：1000）

（①～⑨は旧原医研建物の解体に伴う調査区である。a～cは遺物確認地点、Aは断面清掃調査部分を示す。）

す）造成土と推定される堆積層と基本的に同質であることなどから、この堆積土についても兵器廠造成土の可能性が高い。電気配管移設場所のうち原医研 RI - A 棟・B 棟西側～エネルギー・センター北側については、幅 2 m 規模の南北掘り方を主体とし、北端部約 4 m については幅約 5 m の規模で掘削を行った。エネルギー・センターとの接続部では配線が枝分かれするため、支線部については本線と直交して幅 1 m、長さ約 20 m の規模で L 字状に掘削した。掘削深度は約 1 m であるが、本線の南北配管南端部（エネルギー・センターとの接続部）約 5 m については約 4 m まで掘削した。原医研 RI - A 棟・B 棟西側の堆積土は暗褐色系砂質土を主体としていた（写真 14）。エネルギー・センター北側は学内連絡道にあたり、堆積層上半は道路基礎および土地改良層（硬化層）を主体としていた。下半部は暗褐色砂質土を主体としていた



写真 16 研究 A 棟基礎柱列露出状況  
(2区および3区東端部)



写真 17 2区(研究 A 棟)北端部西壁

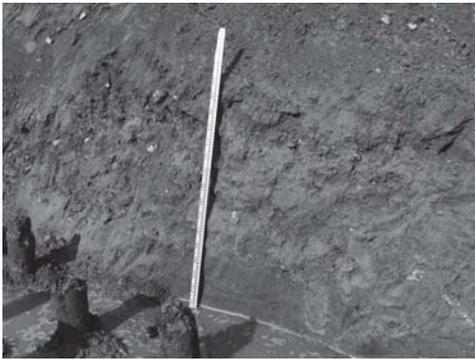


写真 18 3区(研究 A 棟)中央部北壁)



写真 19 4区(研究 A 棟)南端部西壁



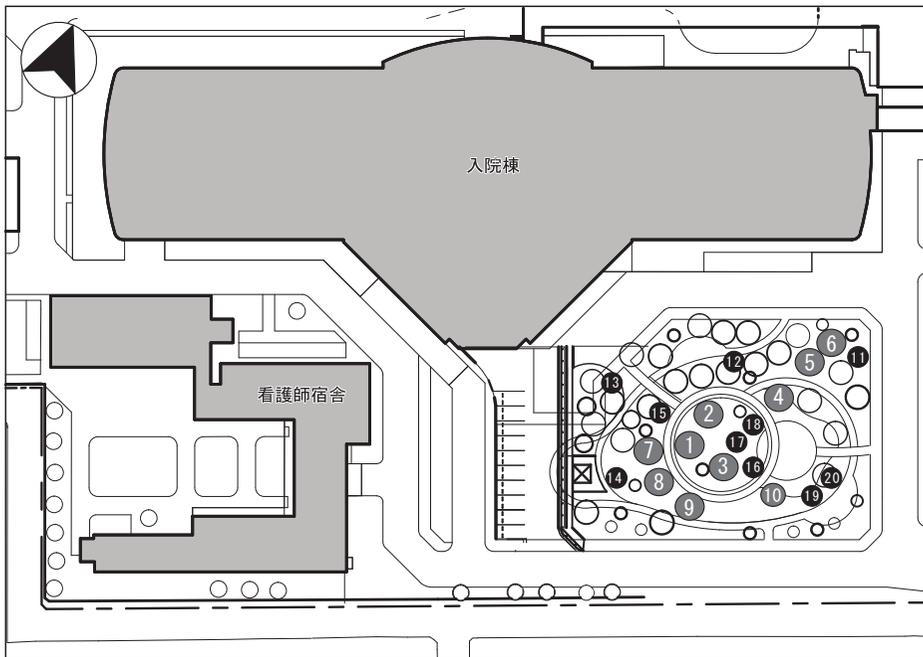
写真 20 4区(研究 A 棟)西壁



写真 21 4区中央部(研究 A 棟)瓦片・炭化物堆積状況

が、南側を中心に兵器廠造成土の可能性ある橙褐色粘質土の堆積が認められた（写真 14）。中性子棟西側では、長さ約 7 m、幅 1 m、深さ約 1 m の掘削を行った。いずれの地区でも遺構・遺物は検出されなかった。

建物基礎撤去 原医研研究棟 A の基礎杭撤去に伴って調査した。調査は基礎杭の撤去作業に合わせて行い、7 地区に分けて実施した（第 39 図）。調査地区は建物基礎工事の際に地表下 1.7 m 付近まで掘削されていたが、兵器廠造成土下底部と思われる橙褐色土 20cm 程度が残されており、その下層に暗灰色～灰黒色粘質土、さらに下層に青灰色砂質土の堆積を確認することができた（写真 17～19）。暗灰色～灰黒色粘質土から少量の陶磁器、土師質土器が出土した。また、4 区西壁では表土直下から橙褐色土の堆積が確認された（第 39 図④ A、写真 20）。下底部では部分的に大型礫が集積した箇所などを確認することができた。上層部では炭化物層を 5 層程度確認しており、最下部の炭化物層を中心に瓦片集積層が認められた。時期を特定できる遺物が出土していないことから詳細は不明であるが、兵器廠に関わる遺構面と判断される。また、研究棟 B および国際放射線情報センター北部の基礎杭撤去（第 39 図⑧・⑨）



第 40 図 大学病院入院棟周辺植栽移設工事（移設先）位置図（1：1300）  
（灰色丸印 1～10 は移植クスノキ、黒色丸 11～20 は新植モミジを示す。）

についても調査したが、基礎杭部分のみの掘削であり、堆積層などの詳細は不明である。遺物などは出土しなかった。

### 3) 大学病院入院棟周辺植栽移設工事

所在地 広島市南区霞1丁目2番3号

調査時期 平成20年11月4日～11月20日

調査面積 151㎡

調査者 藤野次史・永田千織

調査概要 病院入院棟南側の憩いの森への植栽移植、新植に伴い調査を実施した。調査は、入院棟南側の憩いの森への移植、新植に伴う掘削と入院棟周辺のクスノキ掘取に伴う掘削の際、実施した。

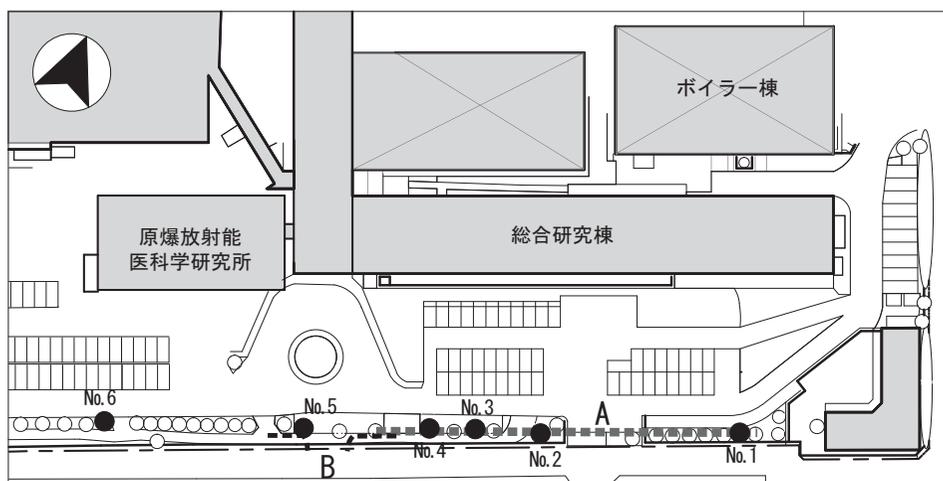
憩いの森植栽移植・新植工事 クスノキ10本の移植、モミジ9本の新植のため、掘り方を掘削に伴って調査した。クスノキの掘り方は径2～3mで、深さ約1mまで掘削した。基本層序は、上層より、第1層：芝および暗褐色層（5cm程度）、第2層：橙褐色砂質土（マサ土、約40cm）、第3層：灰褐色礫混じりコンクリート硬化層、第4層：灰褐色砂質土である。第2層は入院棟建設に伴う盛土である。第3層の厚さは場所によって異なり、平均20～30cmであるが、捨てコン状で厚さ80cm程度のところも認められた。第4層下で、黒色砂質土、黄色砂質土（粗い、マサ土）が確認された場所もあり、黄色砂質土は東側隣接で2007年度に電気配管布設工事に伴う調査で確認した兵器廠造成土と推定される堆積層に類似している。また、クスノキ掘り方No.1では地表下約80cmでコンクリート基礎が露出した。基礎の掘り方は第2層上面付近にあるようで、第2層が入院棟建設に伴う盛土であることが



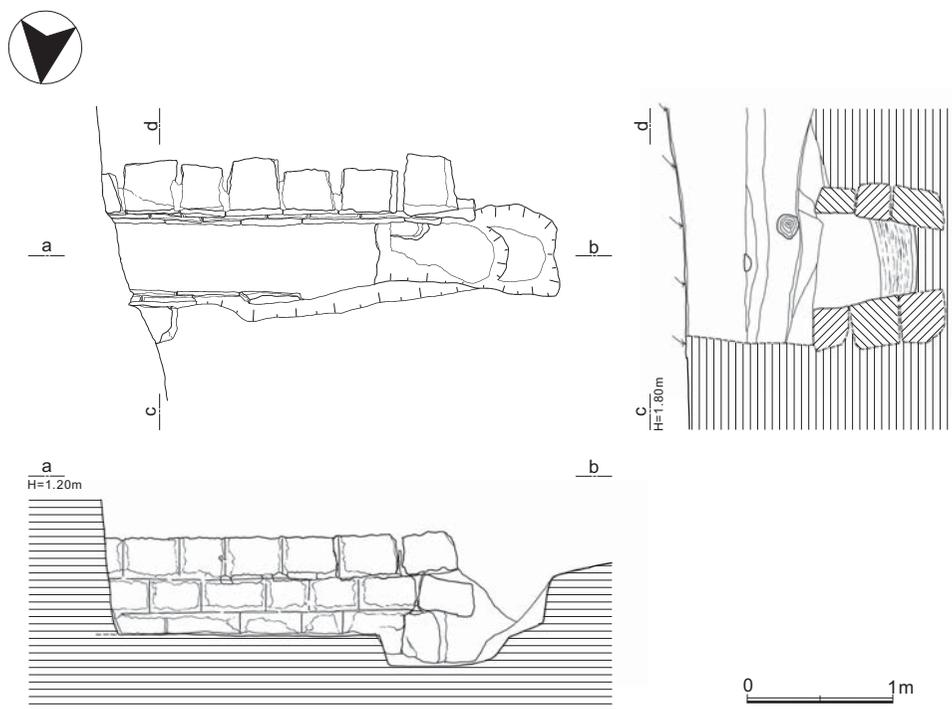
写真22 植栽移設先全景



写真23 クスノキNo.1移植用掘り方掘削状況



第 41 図 大学病院入院棟周辺植栽移設工事（移設元）位置図（1：1500）  
 (No.1～No.6は植栽移設に伴う調査部分である。破線Aは石組溝推定残存部、破線Bは推定旧南門を示す。)



第 42 図 大学病院入院棟周辺植栽移設工事No.1 地点検出石組溝実測図（1：50）

ら、入院棟建設直前まで存在した施設であると推定される。モミジの掘り方は径 1.5 m 前後、深さ 70cm 前後の規模である。クスノキ掘り方の基本層序第 1 層～第 3 層が認められた。いずれの掘り方においても、明確な遺構、遺物ともに検出されなかった。

クスノキ掘取工事 総合研究棟、原爆放射線医科学研究所南側および旧原爆放射線医科学研究所周辺のクスノキ掘取（移植、合計 10 本）に伴って調査した（第 図 1～10）。震地区南縁部（総合研究棟および原爆放射線医科学研究所の南側）に位置するクスノキ No. 1～No. 6 地点（第 41 図）のうち、No. 1～No. 4 地点では、昨年度の移植準備に伴う掘削の際に溝と思われる石組を確認しており、今回の移植掘取では一部の石組に影響を及ぼすこと、掘取穴全体に溝が露出することから、掘取穴内に露出した溝について清掃調査を行った（写真 24～29）。検出した溝の規模は、幅約 65cm、深さ約 70cm で、割石を上下 3 段に布積みしている（第 42 図、写真 26）。割石は直方体状あるいは四角錐台状を呈し、平坦な小口面を溝内に向けており、小口面は幅 30～35cm、高さ 25～30cm の大きさで、控え（奥行）は 30～40cm である。溝断面は逆台形で、床面幅 45cm 前後である。割石の間はモルタルによる目地留めが行われており、一部に漆喰あるいは石灰を用いたモルタル状の目地が認められた。床面はモルタルで平坦に仕上げられ、3 段目割石の上部に位置している。No. 1 地点では西端部の床面が破損しており、床面下の様子を確認することができた。これによると、この床面下約 15cm は礫、暗褐色砂質土が堆積し、その下層に漆喰状材料による平坦面を確認した。平坦面は 3 段目割石の基底部近くに位置している。部分的な断面における確認であるため詳細は不明であるが、このことからすると、一度床面が嵩上げされている可能性があり、下部検出の漆喰状材料による平坦面は構築当初の床面かもしれない。モルタル床面上下の堆積物中から陶製缶詰破片などの太平洋戦争末期に生産された遺物が出土した。溝はクスノキ No. 1～No. 4 地点で確認され、現在の敷地区画塀（以下、区画塀と略す）に沿うように東西方向（N82° E）に延びており、溝南壁から現在の区画塀南端までの距離は約 3 m である。石組の一部が破損しているものの、現在の地表下約 50 cm～1 m に石組溝が東西約 70 m 以上にわたって残存しているものと想定され（第 41 図破線 A）、No. 1 地点の床面標高は 0.10 m 前後、No. 4 地点での床面標高は 0.17 m 前後であることから、西から東への排水していたものと推定される。No. 1～No. 4 地点では溝埋土上半を中心に 1950 年代後半～1960 年代前半の大学病院関連遺物が多数出土した。兵器支廠関連遺物も出土したが、大半は大学病院関連遺物と混在していた。



写真 24 植栽移設No.1 地点調査区全景



写真 25 植栽移設No.1 地点検出石組溝全景



写真 26 植栽移設No.1 地点検出石組溝内部



写真 27 植栽移設No.1 地点石組溝埋積状況



写真 28 植栽移設No.5 地点検出石組



写真 29 植栽移設No.5 地点南北石組

クスノキNo.5 地点では区画塀に平行する東西石組と直交方向に延びる南北石組が連続して検出された(写真28)。東西石組と南北石組は緩やかに弧を描きながら接続されている。東西石組は割石を2～3段積み重ねているが、石垣基底部は確認していない。割石の間には扁平な小角礫を主体に、一部にはモルタルを詰めている。割石の小口面は幅30～40cm、高さ20～30cmで、布積みであるが、1段目と2段目は階段状に積み重ねられている。石組上面の北端から現在の区画塀南端までの距離は約1.8mである。南北石組では、確認したのは1段のみで、幅40～60cm、高さ40cm程度の大型割石の面を揃えて直線的に配置している(写真29)。割石の上には厚さ約15cmの



写真30 植栽移設No.1～5 地点出土遺物(1)  
(左右は陶製缶詰、中央は国民食器)



写真31 植栽移設No.1～5 地点出土遺物(2)  
(昭和40年前後の大学病院の食器)

コンクリート板を敷き並べて(調査範囲で3枚確認)セメントで固定しており、コンクリート板の上面は東西石組上面の高さに揃えている。石組の構築は、南北石組面に東西石組のコーナー部を接合するように行われていることから一連の構築物と考えられる。南北石組コンクリート板の上部30cm付近にアスファルト面を確認した。アスファルト面の下層は、灰白色コンクリート混じり小円礫層、円礫層、黒褐色木炭層、明灰白色砂質土層、コンクリート板の順に堆積しており、黒褐色木炭層から陶製缶詰片などが出土した。また、石組周辺の埋積土から1950年代後半～1960年代前半の大学病院関連遺物が出土したほか、兵器廠関連の遺物も若干出土した。

クスノキNo.6 地点では約1.8mまで調査したが、石組など遺構は確認されなかった。上半部は黄褐色～灰褐色系砂質土、下半は灰白色系砂質土を主体とし、遺物も出土しなかった。

クスノキNo.7～10 地点は深さ1m前後まで調査した。黄褐色～灰褐色系砂質土を

主体としているが、No.7 地点では地表下 60cm 付近から橙褐色粘質土（砂質土）に変化した。周辺の調査成果から兵器廠造成土の可能性はある。いずれの地区でも、遺物、遺構とも発見されなかった。

震地区南縁部のクスノキNo.1～No.4 地点で検出された石組溝、クスノキNo.5 地点で検出された石組の時期や性格の詳細について現状で十分に明確にできないが、出土遺物のうち明確に時期がわかるものとして、広島大学病院名のある磁器類と陶製缶詰がある。前者は大学病院が現在の地に移転した 1957 年（昭和 32 年）～1960 年代後半（昭和 40 年代前半）に利用されたもの、後者は昭和 18・19 年を中心に生産されたものである。前者の利用最終時期は不明であるが、出土磁器は完形品を一定量含んでいた。調査地点周辺は 1961～1962 年に再開発が行われ、盛土が行われている。出土磁器はこの際に一括廃棄されたものが含まれていると思われ、今回検出の石組溝および石組もこの時に埋められた可能性が高い。また、広島大学医学部・大学病院が震地区に移転した 1957 年（昭和 32 年）当時は基本的に終戦直後の建物配置であり、敷地南端の内外に溝が配置され、南門は現在の位置から約 50 m 西に位置している。以上のことから、クスノキNo.1～No.4 地点で検出した石組溝は 1957 年当時の敷地南端内側の溝に相当する可能性が高い。また、クスノキNo.5 地点で検出した石組は 1957 年当時の南門の位置にあたり、南北石組およびその上部のコンクリート板は通路部（道路）を示すものと思われる。上述のごとく、1957 年当時の建物等の配置は基本的に終戦時の配置を良く残していること、溝上部床面下層の出土遺物は戦前の陶製缶詰のみで構成されていることなどから、これらの遺構は兵器補給廠関連の遺構と推定される。

#### 4) 大学病院外来診療棟南側ガス管改修工事

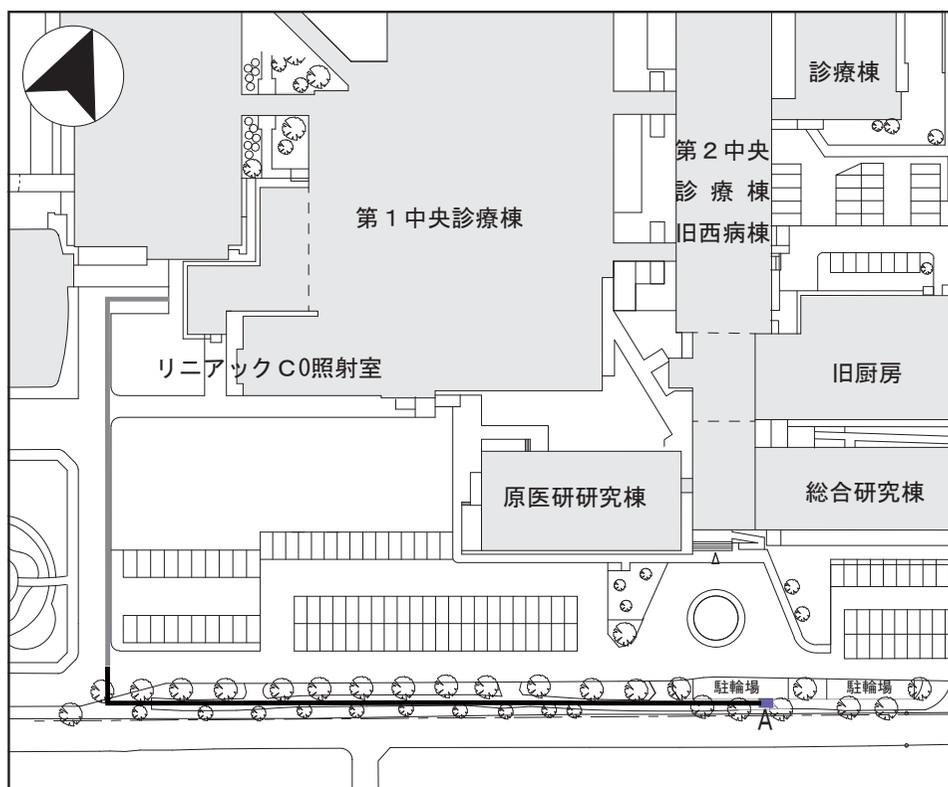
所在地 広島市南区霞 1 丁目 2 番 3 号

調査期間 2008 年 12 月 19 日～12 月 24 日

調査面積 211㎡

調査者 藤野次史

調査概要 大学病院外来診療棟南側のガス管改修工事に伴う調査で、大学病院外来診療棟から原医研南側にかけての一帯である（第 43 図）。ガス管改修のルートのうち、外来診療棟南西端から震地区敷地南端部まで構内連絡道沿い部分については既設配管の取替であり、震地区敷地南端沿いの歩道（東西方向）内の掘削およびその北側の東西連絡道横断部分が新規配管敷設である。前者は既設管掘り方の再掘削であることから、後者について調査を実施した（第 43 図黒線部分）。ガス管設置のための掘り方



第43図 大学病院入院棟南側ガス管改修工事位置図（1：1500）

（Aは既設ガス管接合部分、黒線は新規配管部分布設部分、灰色線は既設配管改修を示す。）



写真32 既設ガス管接合部分掘り方掘削状況

は、幅約1m、深さ約50cm程度の掘削規模で、原医研玄関の南側に位置する既設ガス管との接合部付近については東西約2m、1.3m前後まで掘削した（第43図A）。この部分では調査区北側で幅30～40cm、高さ30cm程度の切石状の角礫が東西方向に並んだ状態で露出した（写真32）。礫の表面は地表下50～60cmである。東西方向で3列分、上下方向では2～3段積み重ねられた状態で、平坦な面を南側に揃えており、調査区外

にも直線的に延びていることを確認した。隣接地で検出した兵器補給廠の南限を画する内側溝と推定される遺構と同一の構造であり、それらの遺構の延長線上に位置している。また、地表下約50cm以下で、昭和30年代末～昭和40年代前半の大学病院関係の磁器類ほかが多量に出土した。検出の溝内部に落ち込むような出土状態であったことからゴミ捨て場として利用されたものと推定される。既設ガス管との接続部分以外の掘り方は深さ50cm程度で、舗装基礎土の下層はおおむね褐色系砂質土であり、遺構、遺物とも検出されなかった。また、南北構内連絡道横断部分については舗装基礎層下でコンクリート混じり硬化面が検出された(写真34)。西側隣接地の憩いの森植栽工事の際にも同様の面が検出されており、入院棟建設直前の土壌改良の痕跡と思われる。



写真33 新設東西配管掘り方掘削状況



写真34 新設南北配管掘り方掘削状況

#### 5) 広島大学霞地区共同溝布設工事ほか

所在地 広島市南区霞1丁目2番3号

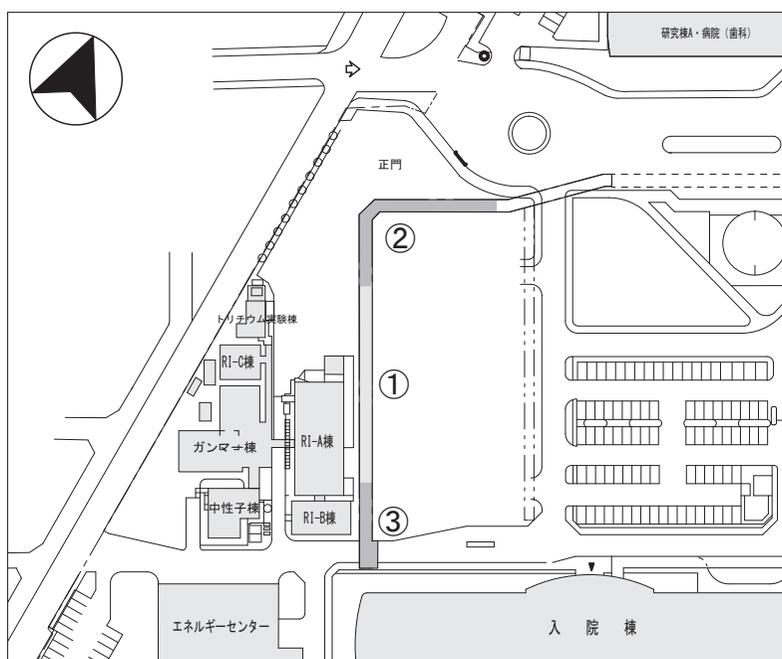
調査期間 2009年2月9日～3月31日

調査面積 6607㎡

調査者 藤野次史・永田千織

調査概要 病院外来診療棟新営工事に先立つ霞地区基幹整備事業の一環として行われる共同溝布設工事ならびに植栽移植に伴って調査を実施した。

共同溝布設工事 対象地域は、旧原爆放射線医科学研究所(以下、旧原医研)敷地内を中心としている(第44図①～③)。共同溝の掘り方は、幅約5m、深さ7～8m



第44図 共同溝敷設工事位置図(1:2000)

(①～③の灰色部分は共同溝敷設位置を示す。各数字は工区名である。)

の規模で、1区(第44図①)、2区(同②)、3区(同③)の順序で掘削を行った。堆積層は大きくは4枚に区分される。

第1層 黄褐色系砂質土

第2層 橙褐色系砂質土(粘質土)

第3層 暗灰褐色～黒灰色系粘質土(砂質土)

第4層 灰色系砂層と暗灰色～暗灰褐色系シルト層

第1層は地表下約40～50cm程度までで、広島大学移転後(第二次大戦後)の造成土である。第2層は、地表下2.2～2.4m付近まで堆積しており兵器廠の造成土を含む埋立土と思われる。地表下2m付近までは橙褐色砂質土を主体とする堆積土で、兵器廠造成土と推定され、その直下に第3層が堆積している場所も多いが、1区を中心にその下層に黄褐色砂質土などが20～40cm堆積しており、近世の埋立層を含んでいる可能性がある。第3層は10～80cmの厚さを有する。20cm前後の厚さの場所が一般的で、1枚の堆積層で構成される場合が多いが、場所によってかなり様相が異なる。一般的に木片を中心とする有機物を多く含んでおり、有機物の分解が進んでおらず、場所によっては自然貝層を形成している。1区中央部などでは70～



写真 35 共同溝 1 区 1 次掘削完了状況（地表下約 2 m）



写真 36 共同溝 1 区 4 次掘削木質堆積層露出状況（地表下約 7 m）



写真 37 共同溝 2 区 1 次掘削底面貝殻（カキ主体）層露出状況（地表下約 2 m）



写真 38 共同溝 1 区北端部堆積状況（上半部：地表～地下約 3.5 m）



写真 39 共同溝 3 区南端部堆積状況（下半部：地表下約 3.5 m～約 7 m）

80cmの厚さがあり、黄褐色砂質土を間層に挟みながら複数枚に分層できる部分がある。湿地や河口部の堆積物を中心とするものと思われる。江戸～明治期の絵図を参考にすると、天明年間（1781～1788年）には霞地区一帯はすでに干拓により陸化している。1区の3層の一部に潮干帯に生息する動物痕跡が認められることから江戸中期以前の堆積層を含んでいるものと推定されるが、堆積時期の詳細は不明である。なお、原位置ではないが、調査区内の3層排土から磁器片数点を採取している。第4層は海成層と考えられ、江戸時代前期以前の堆積層と思われる。自然貝層や植物集積層などが複数認められる。

調査では明確な遺構は確認できなかったが、掘削中に1区中央付近の第3層下底～第4層上面付近で、3本程度の直立した棒状木質が一定間隔で直線的に並んだ状態で認められた。杭列の可能性はあるが、詳細は不明である。

植栽移設工事 医学部研究棟南側の共同溝布設工事（2009年度施工予定）に先立って、対象地域の植栽を移設するものである。今回の工事では、移植元（第36図11）の高木一部（5本）と低木を掘り取り、移植先（第36図j～1）へ分散して移設したが、これに先立って移植先の試掘調査を実施した。移植先のうち高木移植予定の場所について、長さ（東西）



写真40 植栽移設先東半部完掘状況



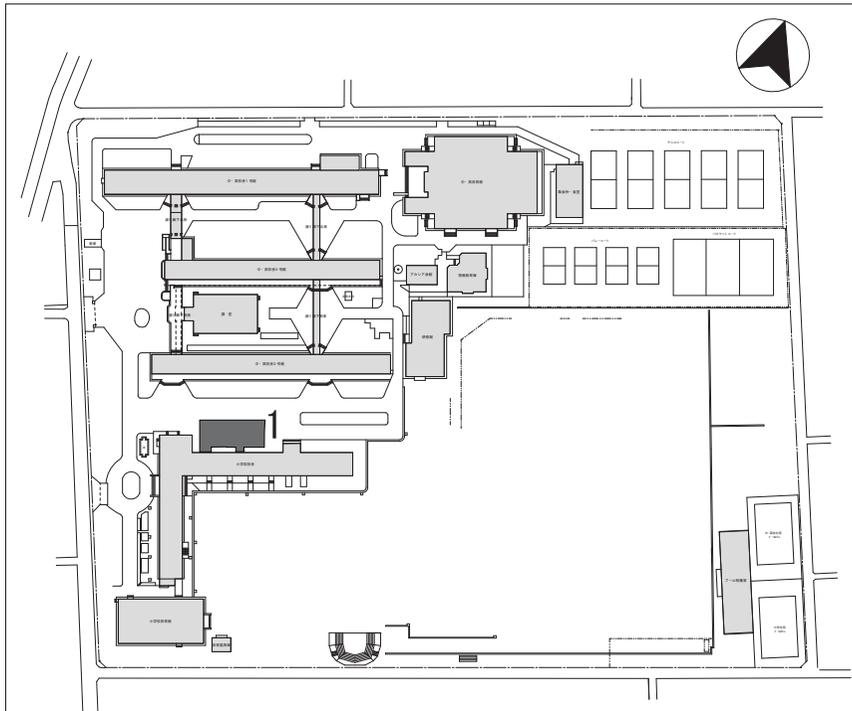
写真41 植栽移設先東半部南壁土層断面



写真42 植栽移設先東半部南壁土層断面

約 7.7 m、幅 50cm の調査区を設定して調査した。調査区中央部付近の地表下 30cm 前後で硬化面を検出した（写真 40）。硬化面は平坦であるが、西から東に向かって緩やかに傾斜し、西端部は急傾斜で西に傾斜している。平坦な硬化面は東西約 3 m で、削平のため東端の境は不明である。上面はコンクリート混じりできわめて硬質である。深度から見て第二次大戦後の遺構と推定される。また、調査区中央部の地表下約 40cm で橙褐色硬化層（厚さ約 5cm）を検出した。上面に灰層のような砂質土が薄く堆積、下層には黒色土（木炭層？）、暗灰褐色砂質土色などが順序よく堆積している。何らかの遺構と思われるが、調査区内はほとんど新規の掘削により削平されており、詳細は明らかにできなかった。橙褐色硬化面は調査区東部へもわずかに広がっており、南北 1.7 m 程度を検出した。硬化面直下から瓦片の集積を確認した。建物撤去の後の整地面と推定される。時期については不明であるが、検出深度からすると、第二次大戦終了直後～兵器補給廠時代の遺構と思われる。

#### 翠地区（広島市）



第 45 図 2008 年度震地区の立会・試掘調査位置図（1：3000）  
（1 は附属学校部小学校校舎増築工事である。）

1) 附属学校部（翠地区）小学校校舎増築工事ほか

所在地 広島市南区翠1丁目1番1号

調査期間 2008年8月25日～9月26日

調査面積 805㎡

調査者 藤野次史

調査概要 附属学校部（翠地区）小学校校舎増築工事に伴う調査で、基礎掘削の規模は、東西32.6m、南北14.28m、深さ1.9mである（第46図）。

基礎掘削に先立って、基礎コンクリート柱の打ち込みが行われた。基礎掘削は西側から順番にコンクリート基礎杭を掘り出し、基礎基底面までコンクリート杭の頭部を削平しながら作業が進められた。

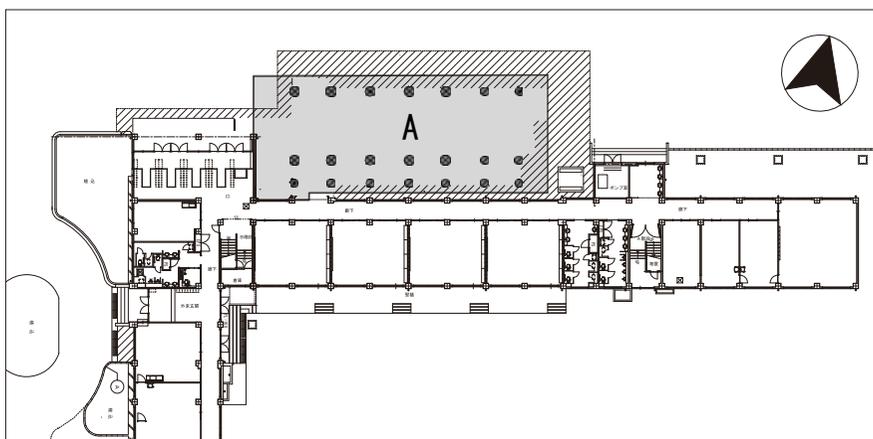
調査の結果、基礎掘削（根切）部の広い範囲から旧制広島高等学校建設の際の造成土と思われる堆積層を確認した。掘削範囲の北側は現代の削平を受けており（写真44）、造成土の基底面付近がわずかに残されている程度であったが、その他の部分ではかなりよく造成土が残存しており（写真43）、造成土を面的に確認できる状況であった（写真45）。

基本層序は、以下の通りである。

第1層 アスファルト舗装及び舗装基礎層（10～15cm）

第2層 戦後の造成土（約50cm）

第3層 青灰色～暗灰色砂質土（約5cm）



第46図 小学校校舎増築工事位置図（1：800）  
（A（灰色部分）は増築部分で、濃灰色○印は基礎支柱である。）

- 第4層 褐色砂質土 (50～60cm)
- 第5層 灰黒色砂質土 (中・大型礫混じり)
- 第6層 暗緑色粘質土
- 第7層 暗灰色砂質土 (粘質土)
- 第8層 灰色砂層

第2層は、黄褐色系砂質土を主体とし、礫を多く含む層、固く締まる層、瓦・煉瓦小片などを多く含む層など多様で、3枚程度の造成面を認識することができる。現地表が形成されるまでに数回の造成が行われたものであろう。第3層は旧表土と思われるが、北壁側ではほとんど確認できない。第4層は旧広島高等学校建設の際の造成土(盛土)と思われる。北壁では3枚程度に細分できるが、いずれもマサ土を主体とする。水平堆積ではなく、造成時に一定量を単位として盛土されたものと推定される。第5層は調査範囲全体に広がるものではなく、造成に際して最初に必要部分に礫を投入したようである。第6層は第4層・第5層と第7層の間に薄く堆積している。第7層は場所によって砂質に傾く場合と、粘質に傾く場合がある。一帯が陸化して以降、旧制広島高等学校建設以前に堆積した層であり、湿地などの堆積土かもしれない。堆積層中から近世～近代の磁器片が出土した。第8層は水成



写真43 附属小学校増築工事地区西壁



写真44 附属小学校増築工事地区北壁



写真45 附属小学校増築工事地区掘削状況  
(旧制広島高等学校造成土上面露出状況)

堆積であるが、現時点では海成層か否かは判断できない。

調査では、第4層上面付近からの掘り込みを断面で確認した箇所も若干あったが、明確な遺構は確認できなかった。遺物としては、中央付近の北壁第4層下底部で土師質土器片、同第7層（写真44）で磁器片が少量出土した。

### 3. 調査の成果

2008年度の開発に伴う試掘・立会い調査は、東広島地区3件、総合グランド地区1件、霞地区6件、翠地区1件の合計11件を実施した。東広島地区、総合グランド地区では、遺構、遺物は検出されなかった。総合グランド地区は、地形的に見ても比較的急な谷地形内に位置しており、遺跡は存在しないと判断された。東広島地区3件のうち2件は山中池南遺跡第2地点の保存整備工事であり、残り1件については過去の開発により旧地形が削平されていた。

一方、霞地区及び翠地区では多くの成果をおさめることができた。霞地区では大学病院入院棟南側の駐輪場改修工事地区（基幹整備）では敷地境の塀の下からコンクリート基礎が検出され、その一部には煉瓦組の雨水排水溝、柱痕などが残されていた。構築時期は判然としないが、1965年（昭和40）以降に一帯が嵩上げされていることから、それ以前の遺構である。大学病院植栽移設工事のうち、総合研究棟南側の大学病院敷地境の遊歩道沿い（塀沿い）のクスノキ移設場所では石組溝が塀に沿って検出され、西端部の調査区では入口と思われる石組遺構、道路遺構などが検出された。石組溝内からは大学病院の入院患者用の食器とともに陶製缶詰や統制食器などが出土した。これらの遺構は旧陸軍広島兵器補給廠に関連するものである可能性が高く、石組溝は兵器補給廠南境の内側排水路と想定される。石組溝はガス管布設工事においても検出された。このほか、旧原医研研究棟解体工事地区や共同溝布設工事地区では、兵器補給廠建設の際の造成土やその下層から近世の陶磁器などが出土し、広く近世関連の遺構（水田か）、遺物が分布していることが推定された。また、近世の遺物包含層下には水成堆積物が厚く堆積しており、今後の調査によっては近世以前の遺構、遺物が検出される可能性が出てきた。霞地区の調査成果から、これまで旧陸軍兵器補給廠に関する記録は極めて少ないことから、今後計画的な調査が必要となろう。翠地区では旧制広島高等学校建設の際の造成土を確認するとともに、その下層から近世後期から近代と思われる磁器が少量出土した。現状では評価が困難であり、今後の調査で注意していきたい。